脳知能の統一理論に基づく AGI開発の展望

磯村 拓哉

理化学研究所脳神経科学研究センター 脳型知能理論研究ユニット 第9回全脳アーキテクチャ・シンポジウム 2024年9月18日

磯村 拓哉

理化学研究所 脳神経科学研究センター 脳型知能理論研究ユニット ユニットリーダー 京都大学大学院情報学研究科 連携准教授 文科省科研費 学術変革領域(A)「予測と行動の統一理論の開拓と検証(2023~ 2027)」領域代表 takuya.isomura@riken.jp

@TakuyaIsomura

https://cbs.riken.jp/jp/faculty/t.isomura/

専攻:理論神経科学

研究テーマ:脳の知能が持つ普遍的な 特性を数学を使って表現すること

研究の動機

- 生物のような人工知能を作りたい
- そのために生物の知能を理解したい

問い

- ・ 生物の知能の本質的原理は?
- 生物の脳が機械より優れている点は?







エネルギーを下げる



規則性・パターンが生まれる

無秩序・無規則



分子科学研究所,水が氷になるまで,https://www.youtube.com/watch?v=8eXdXHP5dk8





赤ちゃん (学習前)



エネルギーを下げる



知能が生まれる

生まれたばかりの脳の神経回路





外界の情報をほとんど持っていない

外界に適応した脳の神経回路



外界に応じたパターンが生まれる 予測・洞察・創造ができるようになる 4/26

知能とはなにか?





脳の統一理論









7/26

自由エネルギー原理

- Karl J. Fristonが提唱している脳の情報理論
- 生物の知覚や学習、行動は、変分自由エネルギーと呼ばれるコスト関数を最小化するように決まるとしている
- その結果、生物は変分ベイズ推論と呼ばれる統計学的な推 論を自己組織化的に行うとされている

Friston, Nat Rev Neurosci, 2010



Isomura & Friston, Neural Comput, 2020; Isomura et al., Commun Biol, 2022

Synchronization of two metronomes, Filmed at Ikeguchi Laboratory https://www.youtube.com/watch?v=feEBzjqishQ

自己組織化系のベイズカ学:どんなカ学系もベイズ推論と見なせる

Environment

System
$$\varphi = \{\tilde{x}, \tilde{x'}, \omega\}$$
 where $\tilde{x} = x[0 \le t' \le t]$

状態の経路とパラメータのダイナミクスは虚数時間勾配法に従う $\partial_{\tau} \varphi = -\partial_{\varphi} H + \xi$

対応するFokker-Planck方程式は次のHelmholtz energyを最小化している

$$\mathcal{A}[\pi(\varphi), \tilde{o}] = \left\langle H(\varphi, \tilde{o}) + \frac{1}{\beta} \log \pi(\varphi) \right\rangle_{\pi(\varphi)}$$

変分自由エネルギー $\mathcal{F}[q(\vartheta), \tilde{o}] = \langle -\log p_m(\vartheta, \tilde{o}) + \log q(\vartheta) \rangle_{q(\vartheta)}$

 $\beta = 1$ のとき、*AとF*は数式として等しい(自然同値)(c.f., 完備類定理) *F*を最小化すると事後分布が得られる (ベイズの定理) $q(\vartheta) = \frac{p_m(\vartheta, \tilde{o})}{p_m(\tilde{o})}$

カ学系の経路とパラメータが共通のAを最小化することを要請するだけで 計算機構が自己組織化(進化)的に創発する可能性を示唆

Isomura, arXiv, 2023

神経細胞の活動とシナプス可塑性

神経細胞の活動とシナプス可塑性

x_t:神経活動, *o_t*:感覚入力, *W*:シナプス結合強度, *h*:発火閾値 16/26

"理論上は"どんな神経回路もベイズ推論を行っている

Isomura & Friston, Neural Comput, 2020; Isomura, Shimazaki & Friston, Commun Biol, 2022

生成モデルのリバースエンジニアリングを用いた検証

培養神経回路における自由エネルギー原理の実証

培養神経回路における自由エネルギー原理の実証

Canonical neural networks perform active inference

Canonical neural networks can implement universal Turing machines

Isomura, arXiv, 2024

- 自由エネルギー原理:全ての生物の知覚や学習、行動は、変分自由エネルギーを最小化するように決まり、その結果ベイズ推論を自己組織化的に行うという主張。
- 等価性:正準神経回路のダイナミクスは、変分自由エネルギーの最小化をしていると見なすことができる。外界のベイズ推論を行うことは、神経回路の普遍的な特性。
- 実証実験:いくつかの実験において、神経回路の自己組織化を理論的に定量予測可能。
- 完全性:正準神経回路は神経活動と可塑性により万能チューリングマシンを実装可能。

展望: 脳型学習アルゴリズムのAI応用

現在のAIの学習アルゴリズム(バックプロパゲーション)は多くの訓練データと計算量が必要(データ枯渇問題)

脳のような効率良い学習アルゴリズム

高いデータ効率、ローカルな計算のみ、ノイズが大きくても可、逐次的に学習可、悪い解に陥ることを回避

